

## 第2学年A組生活科学学習指導案

授業者 保坂 智子  
研究協力者 中野 良樹  
教材分析協力者 長瀬 達也

### 1 単元名 自然を使ったおもちゃをつくろう

#### 2 子どもと単元

##### (1) 子どもについて

第1学年「あきのおもちゃをつくろう」では、自然物を使ったおもちゃをつくる活動を経験している。活動を通して、自分で物をつくり出したり、つくった物で友達と遊んだりすることの楽しさを味わってきている。また、2年生から「おもちゃまつり」に招待され、手作りの動くおもちゃで遊ぶ楽しさも味わったことが強く印象に残り、自分たちもつくってみたいという思いや願いをもっている。

日頃、物づくりに興味があり、自作の遊び道具をつくっている子どもも見られる。しかし、子どもたち同士が関わり合う中で、試行錯誤しながら工夫を重ね、よりよい物をつくるという経験は少ない。また、外で遊ぶ際には草花摘みや、水掛け遊び、鬼ごっこをする姿が見られるが、自然の面白さや不思議さに気付くまで至っていない。

##### (2) 単元について

本単元では、身近にある物を利用したおもちゃづくりを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことをねらっている。そこで、身近な自然に着目したおもちゃづくりの活動を設定する。身近な自然とは、例えば草木、木の実、木の葉、石、砂、土、光、影、水、雨、風などである。自然の一部を借りてきて行うおもちゃづくりの過程で生まれてくるであろう「もっとうまく動かしたい」「友達ともっと楽しく遊びたい」という子どもの思いや願いによって、「比べる」「試す」「見通す」「工夫する」という多様な活動が展開される。おもちゃを改良することを繰り返すことで、思考的な気付きが学びのものさしとなり、更新していくことが期待できる単元である。このような単元の特質を踏まえ、本単元では**身近な自然を利用し、身近にある物を使っておもちゃや遊びを工夫してつくること、その面白さや自然の不思議さに気付くという資質・能力**を育むことを目指す。対象と、試行錯誤を繰り返しながら関わっていく中で、気付きを深めていく子どもの姿を期待して本単元を設定した。

##### (3) 指導について

単元の導入では、自然の中でできる遊びについて考え、実際に自然の中で風によって袋を飛ばしたり水を傾斜から流したりして、自由に遊ぶ場を設定する。そこから子どもたちが自然を利用したおもちゃを「自分でつくってみたい」という思いや願いをもつことができるようにする。おもちゃをつくる段階では、友達同士で教え合ったり、一緒に試して遊んだりすることができるように、似ているおもちゃ同士でのグループ活動を取り入れる。活動を通して生まれる「不思議だな」「すごいな」「どうしたらできるのだろう」「こうしてみよう」などの思いや願い、気付きを大切にして、中学年以降の抽象化や一般化が高まっていく学習へつなげられるようにする。そのために試行錯誤し、何度も挑戦しながら事象を注意深く見つめたり予想を確かめたりすることができるようにする。

単元の後半では、自分の頑張りや友達のよさに気付くことができるように、学級全体で遊び、感想を伝え合いながら友達同士で価値付けをする場を設定する。

単元の終末では、おもちゃや遊びの変容についての気付きを自分の成長への気付きにまで高められるように、毎時間撮りためてきた動画や写真を基にこれまでの活動を振り返りながら、子どもの気付きを価値付ける。そして、気付いたことをこれからの学習や生活にどのように生かしていけるのか考えることができるようにする。

#### 3 単元の目標

- (1) 自然物や身近な物に関心を持ち、おもちゃをつくったり遊んだりする活動を通して遊びやおもちゃをつくる面白さや、自然の面白さに気付く。 (オ-1、キ-3)
- (2) 身近にある物を使いながら、おもちゃをつくる活動を通して、遊びやおもちゃを工夫してつくることのできる。 (ケ-1)
- (3) 試行錯誤しながら工夫を重ね、おもちゃをつくる活動を通して、みんなと楽しみながら遊びをつくり出そうとしている。 (ア-2、カ-1・2、ケ-2、コ-3)

あきのおもちゃをつくろう（1年）  
2年生がつくった手作りおもちゃで交流（1年）

時間	学習活動	教師の主な支援	評価 〈本校の資質・能力との関連〉
1 2	(1) 自然の中でどんな遊びができそうか考え、遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手作りのおもちゃへの関心を高めることができるように、1年生のときに2年生の手作りおもちゃで遊んだ経験を想起する場を設定する。</li> <li>・ 自然を使った遊びについて考えることができるように、袋を風で飛ばしたり水を入れたりして遊ぶ時間を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身近な自然や身近にある物を利用した遊びやおもちゃに関心をもち、楽しく遊んでいる。 〈キ-3〉</li> </ul>
<b>学習課題</b> 自然を使ったおもちゃをつくって、みんなで楽しもう。			
3 4 5 6 <b>本時</b>	(2) つくりたいおもちゃを決め、理想の完成図をかく。 (3) 自分のおもちゃをつくって遊びながら、友達のおもちゃと競争したり、比べたりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然に対して思いや願いをもって制作することができるように、イメージを可視化するためのシートを準備する。</li> <li>・ 友達同士で関わり合いながら活動することができるように、似ているおもちゃをつくっている子ども同士のグループを編成する。</li> <li>・ より楽しく遊べるおもちゃにしたい、もっと〇〇したいという思いや願いをもって活動することができるように、自分や友達のおもちゃで遊ぶ場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のつくりたい自然を使ったおもちゃの理想を図に表している。 〈カ-1〉</li> <li>・ 自分の思いや願いをもち、おもちゃをつくっている。 〈オ-1、ケ-1〉</li> <li>・ 自分や友達のおもちゃで遊んだり、比べたりしながらおもちゃをつくっている。 〈カ-2、ケ-1・2〉</li> </ul>
7 8 9	(4) 自分のおもちゃがもっとよくなる方法を考え、自分のおもちゃを改良する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもちゃづくりについてのヒントやおもちゃのよさに気付いている子どもを称揚し、気付きを全体に広げること、おもちゃづくりの手応えを得たり、おもちゃの改良への見通しをもったりできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達とおもちゃを比べたり、自分で考えた改良法を試したりして、より楽しく遊ぶための工夫を考えている。 〈キ-4、ケ-1〉</li> </ul>
10 11	(5) つくったおもちゃで遊ぶ計画を立て、準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなと楽しく遊ぶための遊び方やルールの工夫をすることができるように、同じ種類のおもちゃ同士でグループを編成し、話し合う場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ みんなが楽しく遊ぶための遊び方やルールを工夫している。 〈ケ-2〉</li> </ul>
12	(6) つくったおもちゃで遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工夫したことの価値に気付くことができるように、みんなが楽しく遊ぶことができた点を価値付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遊び方やルールを教えながら楽しく遊んでいる。 〈ケ-2〉</li> </ul>
13	(7) おもちゃをつくったり、遊んだりしたことを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもちゃや遊びの変容から自分の成長に気付くことができるように、毎時間撮りためてきた動画や写真を基にこれまでの活動を振り返る場を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おもちゃや遊びを工夫する面白さや自然の不思議さ、友達と関わって遊ぶ楽しさに気付いている。 〈キ-4、コ-3〉</li> </ul>

◎本単元で育む主な資質・能力

身近な自然を利用し、身近にある物を利用しておもちゃや遊びを工夫してつくること、その面白さや自然の不思議さに気付く。

5 本時の実際（6 / 13）

(1) ねらい

身近な自然やおもちゃに使う材料に着目して、自分のおもちゃで友達と遊ぶ活動を通して、もっと楽しくなるようにおもちゃをつくり変えることができる。

〈オ-1、ケ-1・2〉

(2) 展開 ○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の主な支援 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価</span>
5分	<p>① 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p>	<p>・どこをどう変えたらよいか意識することができるように、前時に撮影した動画や写真を見たり、前時の振り返りを確かめたりする場を設定する。</p>
<p>めあて 友達とおもちゃで遊び、もっと楽しくなるようにつくり変えよう。</p>		
33分	<p>② 何を変えるかを決め、自分のおもちゃをつくり変える。</p> <p>〈予想される子どもの反応〉</p> <p>【何を変えたらよいか分かっていない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をしたらよいのかな。</li> <li>・このまま遊んでいよう。</li> </ul> <p>【変えたい部分はあるが、どうしたらよいか分からない】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勢いよく飛ばしたいんだけど、この部分をどうかえたらよいか。</li> </ul> <p>【友達を参考にして変えている】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・（〇〇さんが変えているから）自分も真似してみよう。</li> </ul> <p>【自分の思いがあり、つくり変えて遊んでいる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・速く走る車をつくりたいから、タイヤの部分を変えてみよう。</li> <li>・葉っぱの船を大きくしたから、試しにみんなと水に浮かばせてみよう。</li> </ul>	<p>○友達のおもちゃと比べたり、互いにアイデアを出し合ったりしながらつくり変えることができるように、似ているおもちゃをつくっている子ども同士でグループを編成する。</p> <p>○より楽しく遊べるおもちゃにしたい、もっと〇〇したいという思いや願いをもって活動することができるように、自分や友達のおもちゃで遊ぶ場を設定する。その際に、どんなことをするとおもちゃがもっと楽しくなるのか、発見したポイントを掲示する場を設定し、自由に見ることができるようにする。</p> <p>○おもちゃをつくり変えるアイデアが見つからない子どもが見られた場合には、アイデアを引き出すための一助となるように、困っているところを全体で共有する。</p>
<p>身近な自然やおもちゃに使う材料に着目して、友達とおもちゃで遊びながら、友達の助言やおもちゃを参考に自分のおもちゃをつくり変えている。</p> <p>〈オ-1、ケ-1・2〉（発言・行動観察・シート）</p>		
7分	<p>③ 本時を振り返り、次時の活動への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帆のところはもう少し大きい物にした方が、風が当たりやすくなる。</li> <li>・水に浮きやすいように、もっと軽い物がよさそうだから、探して試したいな。</li> </ul>	<p>・本時の気づきや思いを、おもちゃの改良へとつなげることができるように、発見したことや次時にできそうなことを表す活動を設定する。</p> <p>・自分のおもちゃがどのように変わったのか確認できるように、動画や写真に記録する場を設定する。</p>

# 令和5年度 生活科実践・研究計画

部 員	○渡部 和朝、保坂 智子、丹 理人
-----	-------------------

研究テーマ  
**思いや願いをもって対象への働きかけをよりよくしながら、気づきの質を高めていく子どもを育む学び**

## 1 研究テーマについて

昨年度までの実践では、子どもたちは思いや願いはもっているものの、働きかけと結果との関係を十分に理解できず、思いや願いの実現に向けて働きかけをよりよいものへと更新していくという点について課題が残った。そのため、よりよい働きかけをしたという手応えや自分自身の成長の実感が生まれていないというのが現状である。

こうした現状を踏まえ、今年度は、気づきの質が高まるように「無自覚なものから自覚された気づき」「一つ一つの気づきから関連付けられた気づき」「対象への気づきから自分自身への気づき」へと気づきの対象を変化させ、働きかけをよりよいものへと更新できるように学習を進めていく。

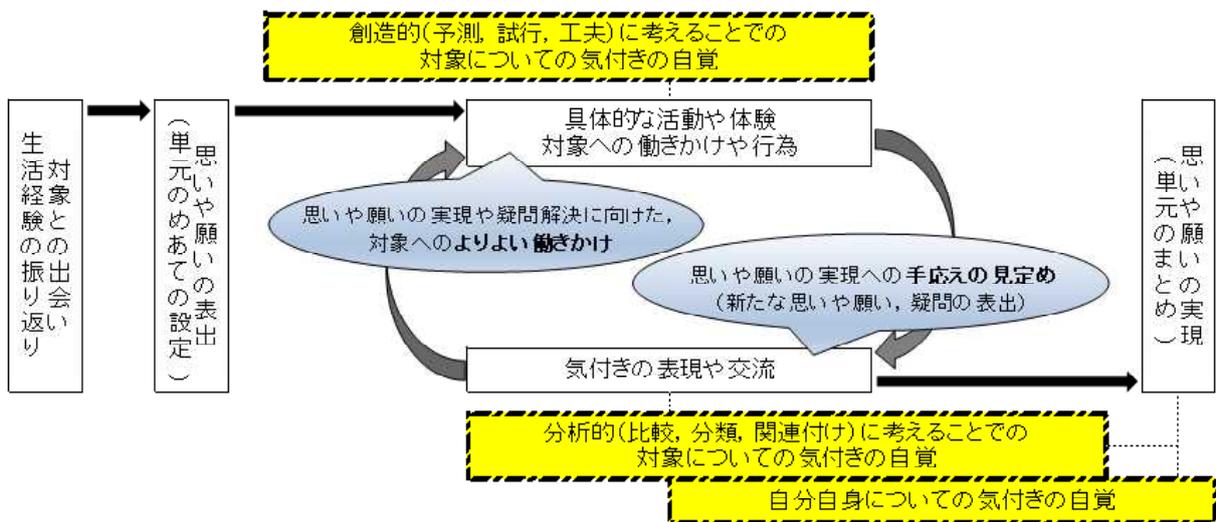
そのためにはまず、教師が子どもに尋ねたり活動の振り返りを促したりしながら、気づきの自覚化を図るようにする。また、子ども同士で学び合う場面を設定し、互いの気づきを比べながら、相違や新たなことに気付くことができるようにする。さらに、他者からの価値付けにより、自分の成長や可能性などの気づきを得られるようにしていく。

本校生活科で育みたい力は、対象へ働きかけて得た気づきの質を高め、思いや願いの実現への手応えを見定める力であり、働きかけと得られた対象の反応や結果の関係を自覚し、対象への働きかけをよりよいものへと更新していく力である。

そこで、働きかけの方向性を見通し、働きかけをよりよくしながら思いや願いの実現を目指す姿を期待し、「思いや願いをもって対象への働きかけをよりよくしながら、気づきの質を高めていく子どもを育む学び」の研究テーマで実践を積み重ねていく。

- 生活科で目指す自律した子どもの姿
- ・分析的（比較、分類、関連付け）に考えることで、働きかけて得た手応えや抱いた思いや願いを自覚し、実現への手応えを見定める姿
  - ・手応えを基に、創造的（予測、試行、工夫）に考えることで、働きかけと対象の反応や結果との関係を自覚し、対象への働きかけをよりよいものへと更新していく姿

図：生活科 自律した学習者を育てる学習のプロセス



## 2 研究の重点<○は具体的な取組の例>

- 対象への働きかけをよりよいものへと更新し、気づきの質を高めるための手立て
- 思いや願いの実現に近づくために、働きかけをよりよいものへと更新しながら気づきの質を高めることにつなげる、教師の働きかけや学び合いの支援について工夫する。
  - 試行錯誤して得られた対象の反応や結果と働きかけについての気づきを関連付けられるように、思考ツールやICT機器を活用する。

## 令和5年度「生活科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容			学習指導要領との関連内容	1年	2年
生活科の 学びに向かう 力、 人間性等	a1	学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して、地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。	全般	■	■
	a2	身近な人々、社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して、自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。	全般	■	■
	a3	自分自身を見つめることを通して、意欲と自信をもって生活するようにする。	全般	■	■

内容構成の 具体的な視点		内容	学習指導要領との関連内容	学校、家庭及び地域の生活に関する内容		身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	
				1年	2年	1年	2年
健康で 安全な 生活	ア1	健康に気を付けて、規則正しく生活ができる。	(1)学校と生活 (2)家庭と生活	■	■		
	ア2	安全に気を付けて、楽しく安心して遊びや生活ができる。	(1)学校と生活 (3)地域と生活	■	■		
	ア3	安全な登下校ができる。	(1)学校と生活	■	■		
	ア4	通学路の様子やその安全を守っている人々に気付くことができる。	(1)学校と生活	■	■		
身近な 人々との 接し方	イ1	学校生活を支えている人々や友達に気付くことができる。	(1)学校と生活	■	■		
	イ2	家庭での生活は互いに支え合っていることに気付き、自分の役割を果たすことができる。	(2)家庭と生活	■	■		
	イ3	地域で生活したり働いたりしている人々と適切に接することができる。	(3)地域と生活	□	■		
地域への 愛着	ウ1	自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることに気付くことができる。	(3)地域と生活	□	■		
	ウ2	地域の人々や場所に親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりすることができる。	(3)地域と生活	□	■		
公共の 意識と マナー	エ1	公共物や公共施設のよさを感じたり働きを促えたりすることができる。	(4)公共物や公共施設の利用	■	■		
	エ2	身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる。	(4)公共物や公共施設の利用	■	■		
	エ3	みんなで使うものや場所、施設を大切に正しく利用できる。	(4)公共物や公共施設の利用	□	■		
生産と 消費	オ1	身近にある物を利用して作ったり、繰り返し大切に使用したりすることができる。	(6)自然や物を使った遊び	■	■		
	オ2	必要なものを自分で計画的に買ったり、用件を正しく伝えて買い物などを行うことができる。			□		
情報と 交流	カ1	相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりし、様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え合うことができる。	(8)生活や出来事の伝え合い	■	■		
	カ2	身近な人々に関わることのよさや楽しさに気付き、身近な人々に関わったり交流したりすることができる。	(8)生活や出来事の伝え合い	■	■		
身近な 自然との 触れ合い	キ1	動物を飼ったり植物を育てたりして、生き物への親しみをもち、大切にすることができる。	(7)動植物の飼育・栽培	■	■		
	キ2	身近な自然(草花、樹木、水、氷、雨、雪、風など)を観察し、それらの違いや特徴を見付けることができる。	(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び (7)動植物の飼育・栽培	■	■		
	キ3	自然の面白さや自然の不思議さに気付くことができる。	(5)季節の変化と生活 (6)自然や物を使った遊び (7)動植物の飼育・栽培	□	■		
	キ4	動物や植物の育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、動植物は生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。	(7)動植物の飼育・栽培	□	■		
時間と 季節	ク1	四季の変化、季節によって生活の様子が変わること気付くことができる。	(5)季節の変化と生活	■	■		
	ク2	一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして、生活を工夫したり楽しんだりすることができる。	(5)季節の変化と生活	□	■		
遊びの	ケ1	身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくるすることができる。	(6)自然や物を使った遊び	□	■		

工夫	ケ2	自分と友達などとのつながりを大切にしながら、遊びを創り出し、みんなと楽しく過ごすことができる。	(6)自然や物を使った遊び		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
成長への喜び	コ1	自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、生活での自分の役割が増えたことに気付くことができる。	(9)自分の成長	自分自身の生活や成長に関する内容	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	コ2	自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつことができる。	(9)自分の成長		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	コ3	自分の成長を喜び、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとするすることができる。	(9)自分の成長		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
基本的な生活習慣や生活技能	サ1	生活のリズムを整え、時間を守ることができる。	全般		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	サ2	道具や用具の準備、片付け、整理整頓ができる。	全般		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	サ3	ルールやマナーを守ったり、適切な挨拶や言葉遣いをしたりすることができる。	全般		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
	サ4	訪問や依頼の仕方を知ったり、電話や手紙などを使って連絡したりすることができる。	全般		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

#### 生活科の学びを深める「見方・考え方」

- b1 自分の知識や経験をもとに、会いたい人、行きたい場所、してみたいことなどに着目して、自分の思いや願い、関心や疑問をもつ。
- b2 身近な人々、社会及び自然などの対象に、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして直接働きかける。
- b3 試す、見通す、工夫するなどの活動により、試行したり、予測したり、工夫したりなどして創造的に気付きを得て考える。
- b4 見付ける、比べる、たとえるなどの活動により、気付きを比較したり、分類したり、関連付けたりするなどして分析的に考える。
- b5 気付きや考えなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法によって、他者と伝え合ったり、振り返ったりする。
- b6 身近な人々、社会及び自然などの対象と自分がどのように関わっているのかに着目し、自分自身や自分の生活について考え表現する。